追章　「平成 28 年（2016 年）熊本地震」による被害の概要

第 1 節　被災状況の概要

平成 28 年 4 月 14 日、16 日に発生した「平成 28 年（2016 年）熊本地震」は熊本県上益城郡益城町や阿蘇郡西原村で震度 7 を二度記録し、熊本市では震度 6 弱、6 強を観測した。多くの人的被害、建造物・施設等の損壊、交通、ライフラインの遮断等甚大な被害をもたらすとともに、農業や商業、観光業等経済活動にも大きな打撃を与えた。

特別史跡熊本城跡においてもこれまでに経験したことのない被害を受け、被災は重要文化財建造物・復元建造物・石垣等史跡全体に及んだ。下記表に被害の概要をまとめる。（被害状況は平成 28 年 6 月時点で本市において把握されたもの）

【重要文化財建造物 13 棟】

	被 災 箇 所	被 災 概 要
1	宇土櫓	五階櫓：屋根、外壁、建具破損　　続櫓：倒壊
2	平櫓	屋根、外壁、下屋部分破損
3	不開門	櫓倒壊、門部ゆがみ
4	五間櫓	屋根、外壁破損
5	北十八間櫓	倒壊
6	東十八間櫓	倒壊
7	源之進櫓	屋根、外壁破損
8	四間櫓	屋根、外壁破損
9	十四間櫓	屋根、外壁破損
10	七間櫓	屋根、外壁破損、傾斜
11	田子櫓	屋根、外壁破損、傾斜
12	長塀	東側倒壊、倒壊部分以外も傾き
13	監物櫓	外壁破損、傾斜

【石垣】　※ 64 箇所の被害（表は被害が大きかったもののみ掲載）

	被 災 箇 所	被 災 概 要
1	西出丸北側	戌亥櫓台の北・東面の崩落、櫓台東側石塁約 100 mのうち、北面全長及び南面 3 ヶ所の崩落
2	西大手門	東側櫓台と南側石塁の崩落
3	元太鼓櫓	櫓台と東側石塁の崩落
4	奉行丸西側	石塁のほぼ全長が崩落
5	南大手門	東・北面石垣崩落　※崩落石材園路（車道）を塞ぐ
6	頬当御門通路	両側石垣の崩落
7	宇土櫓続櫓	二階櫓台南面石垣の崩落、西面石垣南側下部に孕み

8	天守台	大天守台出口北側石垣の崩落、穴蔵内壁の崩落 小天守穴蔵内壁の崩落、北東部の崩落、北側への傾斜
9	数寄屋丸二階御広間周辺	南面石垣の一部崩落、五階櫓台石垣の南・西面の崩落
10	耕作櫓門西側（売店東）	西・北・東面石垣の崩落
11	石門周辺	石門上部石垣の崩落及びトキ御櫓台石垣の崩落、御裏五階櫓台西面石垣の崩落
12	長局付近	天守台北東部の地割れと沈下、長局北側石垣の崩落、長櫓東側石垣の孕み
13	不開門周辺	門前の通路石垣の崩落
14	北十八間櫓・東十八間櫓周辺	櫓台上部石垣の崩落　※熊本大神宮社務所等に崩落し全壊
15	東櫓御門・南側通路	櫓台隅石の緩み顕著、通路東面石垣の崩落と亀裂大
16	東竹の丸西口	西側出入口周辺の北石塁と南石塁の崩落
17	竹の丸五階櫓跡	櫓台南西隅周辺の崩落
18	西櫓御門通路	櫓台跡周辺両側石垣の崩落
19	飯田丸五階櫓台及び周辺石垣	櫓台南東部石垣の崩落、曲輪南東部石垣際での亀裂、沈下顕著
20	竹の丸西側石垣	備前堀側石垣ほぼ全長の崩落
21	山崎口通路（櫨方料金所）周辺	通路周辺石塁石垣の崩落・孕み
22	馬具櫓台	南側一部崩落
23	北大手門周辺	現加藤神社北側石塁の崩落、内壁の一部崩落、孕み・緩み顕著
24	百間石垣～二の丸御門跡	百間石垣３ヶ所崩落、二の丸御門周辺石垣の崩落 ※崩落石材が市道を塞ぐ
25	二の丸御門跡西側（駐車場側）	ほぼ全面にわたる石垣崩落、隅角部での緩み孕み
26	二の丸西口西側	南面のほぼ全長にわたる石塁崩落、東面の緩みによる石材落下
27	宮内橋北側	崩落　※崩落石材が市道を塞ぐ
28	熊本国税局跡東側	駐車場・設計事務所側に石垣崩落・前傾

【復元建造物・工作物等】

	箇　所	被　災　概　要
1	天守	屋根破損
2	本丸御殿	外壁破損、一部沈下
3	長局	外壁破損
4	数寄屋丸二階御広間	外壁ひび割れ、下部石垣一部崩落による建造物たわみ
5	宇土櫓塀	倒壊
6	飯田丸五階櫓	外壁ひび割れ、下部石垣一部崩落による建造物たわみ
7	戌亥櫓	外壁ひび割れ、下部石垣一部崩落による建造物たわみ
8	西出丸塀	倒壊
9	西大手門	外壁ひび割れ、下部石垣一部崩落による建造物たわみ、傾き
10	南大手門	外壁ひび割れ、下部石垣一部崩落による建造物たわみ

11	元太鼓櫓	外壁ひび割れ、下部石垣一部崩落による建造物傾き
12	奉行丸北側塀	倒壊
13	奉行丸西側塀	倒壊
14	未申櫓	外壁破損
15	奉行丸南側塀	控え石柱一部破損、傾き
16	奉行丸東側塀	一部倒壊、倒壊部分以外も傾き
17	馬具櫓	外壁ひび割れ、南面石垣一部崩落
18	馬具櫓続塀	一部倒壊
19	櫨方門　※移築	外壁破損
20	平御櫓　※再建	壁、床破損
21	旧細川刑部邸　※移築復原	外壁ひび割れ、屋根破損、塀一部倒壊

第２節　被災履歴

江戸初期の石垣の修理や堀の浚渫を幕府に願い出た際の絵図や古文書、地震や洪水等による被災状況等を示す絵図や古文書でこれまでの被災履歴を確認できる。

また、近現代の主要な災害としては、明治 10 年（1877）西南戦争時の火災による大小天守や本丸御殿等の焼失、明治 22 年（1889）の金峰山地震による飯田丸五階櫓台をはじめとする石垣の崩落等がある。戦後は、平成３年（1991）に日本列島を縦断し、全国的に甚大な被害をもたらした台風 19 号による長塀の倒壊等が挙げられる。

※「熊本城跡の災害による破損と修理履歴」については巻末に掲載。

第３節　被災の記憶等の継承や調査研究等の情報発信

熊本城は築城以来さまざまな災害を経験してきたが､金峰山地震の記憶が薄れていたように、今回の平成 28 年熊本地震の記憶が風化しないように、地震の記憶や記録の継承が重要である。

さらに、熊本城の復旧に用いた技術の継承も重要である。現在、国・県・大学・研究機関等と連携し、熊本城の復旧に向けて取り組む中で、さまざまな調査研究が行われており、今後、この成果に基づいて、文化財の価値を踏まえた最新技術を活用した安全対策も提案されると思われる。伝統工法と合わせ、ここで用いられた城郭復旧技術は、熊本城にとどまらず、全国各地の城郭等の調査研究にとっても極めて重要であり、有益な情報となるものである。これらを城郭の調査研究の先進例として、また、継承の担い手となる技術者や市民、ボランティア等の人材育成等のためにも、広く情報発信・情報共有等を行っていく。

また、これらの地震の記憶・記録の継承や調査研究・復旧技術を全国に情報発信するための施設の整備についても、今後検討を行っていく。